

／ 高すぎる教育費いつまで自己負担？！

学びは社会が 支える時代へ。

無料！

全6回
webセミナー
開講！

家族の「困った」を、社会が「支える」へ 高等教育費負担軽減webセミナー

高等教育費の家庭負担は限界に近づいている状況です。このセミナーは「家族の困ったを、社会が支えるへ」をテーマに、高等教育費を「個人の責任」でなく「社会全体で支える」という意識改革を目指します。

回数・時間

全6回 2025年10月 » 2026年3月 | 平日19時-19時40分(予定) |

内容

イントロダクション(5分) / 講演(35分)
各回の講師と講演内容は裏面をご覧ください

開催方式

オンライン開催(Zoomのウェビナー)
全て見逃し配信しますので途中からの受講も大歓迎

受講料

無料



どなたでも
参加可能
です！



今、私ができること。
今、あなたができること。
高等教育費の
負担軽減を

／ check! ／



お申し込みはコチラから



講座の詳細、参加申し込み、お問い合わせ
についてはWEBサイトをご確認ください。

主催 すべての人が学べる社会へ 高等教育費負担軽減プロジェクト

日本は、高等教育への公的支出がOECD諸国と比べて低い一方で、「高等教育費は家庭が負担すべき」という考え方が根強く残っています。このセミナーでは、「家族の『困った』を、社会が『支える』へ」をテーマに、高等教育費の負担を「個人の自己責任」ではなく「社会全体で支える」という意識改革を目指します。知識の習得だけでなく、参加者の皆様が学びを活かし、新たな連携やつながりを生み出すことを期待しています。

セミナーの目的



プログラム

1

国際比較に見る日本の親負担主義の重さ

講師 小林雅之さん(桜美林大学教育探究科学群特任教授)
時期 2025年10月28日(火) 19:00-19:40



日本では親の高等教育の費用負担が重く限界に来ており、近年、公的負担による軽減策が相次いで導入されました。3つの教育観と教育費負担観のモデルを提示し国際比較の観点から、日本の教育費負担の現状と問題点を検討し、将来の展望を示します。

2

高等教育費における親負担・家族負担主義を考える

講師 大内裕和さん(武蔵大学教授)
時期 2025年11月25日(火) 19:00-19:40



戦後、日本の高等教育費は親や家族が負担してきました。政府支出が少ない中でも進学率が上がったのは、親負担を当然とする意識が強かったためです。しかし、この負担主義は現在限界を迎えています。現状を分析し今後の望ましいあり方を考察します。

3

借主と家族を苦しめる貸与奨学金の負担

講師 岩重佳治さん(弁護士)
時期 2025年12月18日(木) 19:00-19:40



貸与奨学金は、将来の収入が不確実なため返済困難なリスクを抱えています。返済猶予や減額制度には限界があり、保証人への影響を恐れ無理な返済を続ける人もいます。奨学金が個人の自由な選択を制限し、家族の負担となる現状とその構造的な問題について考えます。

4

貧困の連鎖を断ち切るために

講師 渡辺由美子さん(認定NPO法人キッズドア理事長)
時期 2026年1月20日(火) 19:00-19:40



日本の高等教育は公的支出が少なく、家計の負担が重くなっています。83%を超える高い進学率の一方で、半数以上の学生が奨学金などを利用し学費の不安から学びに専念できない状況です。貧困の連鎖を断つため、高等教育費のあり方を皆さんと考えたいと思います。

5

現在の全国の学生の学費値上げ反対の取組

講師 金澤伶さん(東京大学所属学生)
時期 2026年2月17日(火) 19:00-19:40



東大学生として、学費値上げ反対の活動をしています。学費問題は、経済格差を教育格差に固定する全世代的な問題です。国立大学を含め値上げの波が広がる中、学費は値下げし、最終的には無償化されるべきだと考え活動しています。

6

大学を「会社」から「社会」に戻す

講師 矢野眞和さん(東京工業大学名誉教授)
時期 2026年3月12日(木) 19:00-19:40



日本の大学が抱える「18歳主義」「卒業主義」「教育費の親負担主義」の3つの病理は、年功賃金制度をはじめとする日本的な雇用を支えられてきました。しかし、その雇用システムが揺らいでいる今、大学を「会社」から「社会」に戻す好機が来ています。